

英語学習者の外来語認識と英文読解

Chieko KAWAUCHI

本論文は外来語が英語学習の中でどのように意識され、実際の英文の中でどのように認識され、そして英文読解にどのように影響するかについて調べたものである。まず、アンケートによって学習における外来語活用を調査した。次に102名の中より語彙力の上位学習者30名、および下位学習者30名に対して4種類の英文と読解テストが提示された。これらの英文は、高頻度の外来語数や英文の長さは同等であるが、トピックの親密さ、英文の難易度が異なるものである。主な結果としては次の6点があげられる。(1) アンケートの結果ではカタカナを書いて発音を覚えるかという質問に、上位学習者と下位学習者に有意な差が見られ、上位学習者はほとんどカタカナを使用しないことが分かった。(2) 上位学習者は下位学習者に比べてより多くの外来語を認識し、4種類の英文の間でその認識語数に有意差が見られた。しかし下位学習者はトピックの親密度や英文難易度に関係なく、認識された外来語数に有意な差が見られなかった。(3) 下位学習者はアンケートの総得点と認識された外来語数に有意な相関があった。(4) 読解テストは上位学習者が有意に高い得点であった。(5) 下位学習者は、英文難易度よりもトピックの親密さにより敏感であった。(6) 外来語がどのように読解に影響を与えるかについては明確な結果が見られなかった。外来語が社会で増加する中、いかにしてそれらを語彙学習に活用されうるかについても議論する。